



学校だより

志高く

正しい判断力とたくましい実践力を
もった熊谷東中生を育てる学校

発行 熊谷市立熊谷東中学校
電話 048(521)0066
FAX 048(521)8429
令和6年12月03日
第19号 人権講話

ゲーテと SEKAI NO OWARI

校長 清水利浩



今日のテーマは、「仲間について考える」として
みようと思います。サブタイトルは、「嫌いな人、
苦手な人、合わない人…、これからの出会いと付き
合い方」とします。

……■ゲーテの言葉から■……………

ドイツの詩人のゲーテの言葉を紹介します。
「嫌いな人とつきあってこそ、人とうまくやって行く
ために自制する心が、私に生まれる。嫌いな人とつ
きあってこそ、私の心の中にあるいろいろな側面が
刺激されて、私が完成されていく。やがて、誰とぶ
つかってもびくともしないようになるわけだ。」と。

みなさんは、この言葉をどう捉えますか？ ここで
いう、「嫌いな人」は、たとえば、苦手な人、合わな
い人……と置き換えてもいいでしょう。今日は、生

活記録をもって来ていると思います。どこのページでも構いません。「ゲーテの言葉」と書いて、このこ
とばに対する「自分の思い」を書いてみてください。書いたことを情報共有することは考えていません。
自問自答する時間としたいと思います。では、1分間取ります。今までのみなさんの経験を踏まえて、賛
成である思い、賛成とは言えない思いを書いてください。先生方は、その様子を見に行きますね。

ゲーテさんは、大好きな友達といるときには、人はさほど成長しない。人生で出会う大嫌いな相手、
どうしても許せない相手に出合ったときこそ、自分自身が大きく成長するチャンスです。感情の高ぶりを抑え、冷静に頭を使って「相手の立場」を想像して見ることができたならば、強い人間になれるとい
います。

これは、君たち中学生だけではなく、大人になっても同じようなことに悩む時がたくさんあります。だ
からこそ、皆さんに考えるきっかけにして欲しいのです。

自分の正義ばかりを主張し、争いやイザコザを繰り返す人間関係になることもあるでしょう。争いの
場面であっても、頭を使って自分なりにしっかりと考えようする人になって欲しいのです。これが、校歌
にもある「人間性」を磨くことになるのでしょう。

意外と、争っている先のゴールは、同じかも知れません。

・・・■しなやかさをもつ■・・・・・・・・・・・・

ゲーテの言葉の後半部分をも
う一度みてみます。「嫌いな人と
つきあってこそ、私の心の中にあ
るいろいろな側面が刺激され
て、私が完成されていく。やが
て、誰とぶつかってもびくとし
ないようになるわけだ。」

皆さんはレジリエンスという言葉
を聞いたことがありますか？
「レジリエンス」とは、心理学の
用語です。さまざまな逆境や困
難に直面しても、それらを乗り越
えたり立ち直ったりする力のことを言います。



熊谷東中の秋の昼休みの風景 R6. 12. 02

飛行機の翼は離陸とともに、大きくしなるのはご存じでしょうか。なぜでしょう？気流の悪い時など、翼が上下に大きくしなることで、揺れを軽減することができるのです。つまり、翼が折れないように、「しなやかな」構造になっているのです。私たちの心も同じです。「折れない心」のためには、「しなやかな心」が大切だと言われます。逆境で、一時的に落ち込んだとしても、回復して立ち直るという「しなやかな心」が大切であるということです。

言うのは簡単。実際はそんなもんじゃない。確かに。では、逆境にも打ち勝つ、しなやかさを身に付けるには、どうしたらいいのだろう。

日ごろから周囲の友達や家族としっかりコミュニケーションができていることが大切です。つまり、コミュニケーションの力を少しずつ身に付けていくことも重要だと思います。コミュニケーションの力で、正しい判断力とたくましい実践力をもって、苦しい時は、仲間に相談する、助けを求めることが大切です。逆境でもパニックにならず、冷静に自分の気持ちや感情をコントロールできる、こんなレジリエンスを身に付けてください。学校という場所、社会、チームはそれを鍛えたり身につけたりする場所だと思います。

・・・SEKAI NO OWARI「Dragon Night」①・・・・・・・・・・・・

最後に校長先生から、ある曲の歌詞を紹介して終わりにします。SEKAI NO OWARIの曲です。3年生との個人面談で、セカオワの歌詞が好き、曲が好きという生徒が多くいました。校長先生が、ある日の帰宅途中の車のラジオに流れていたのが、セカオワの「Dragon Night」という曲でした。この中の歌詞に注目しました。

「人はそれぞれ「正義」があって、争い合うのはしかたないのかもしれない。だけど、僕の嫌いな「彼」も彼なりの理由があると思うんだ」。この先は、学校だより「志高く」として、Teamsにアップします。ぜひ、読んでください。また、人権旬間、クラスで話し合いをする際の一つの参考にしてください。

・・・SEKAI NO OWARI「Dragon Night」②・・・・・・・・・・・

人はそれぞれ「正義」があって、
争い合うのは
仕方のないのかもしれない
だけど僕の嫌いな「彼」も
彼なりの理由があると思うんだ

SEKAI NO OWARI の「Dragon Night」という曲の一部分の歌詞ですが、「争い」とは、正義と正義のぶつかり合いです。

お互いに自分こそが正しいと思っている。譲れないと思っている。

「絶対に自分の方が正しいと思う。君の方が悪い」。

「偉そうなことばかりいって、君の方こそできてないじゃないか!」。

「どうして、あんなにもひどい言い方するんだ。許せない!」。

大人だって、いろんな人とぶつかってしまうことがあります。完璧ではありません。ぜひ、おうちの人とも話題にしてください。

「いつも自分が正しい、自分こそが正義だ」と、「自分」を主語にして考えてしまいがちです。

でも、「君」は、どう思っているのだろう。「君」は、なんでそんな発言をしたのだろうかと、「君は」を主語で考えてみることに気づいて、考えてみましょう。



晩秋の熊谷東中学校 (校庭) R6. 12. 02



人権のおはなし集会 R6. 12. 03

校長先生は、たとえ許せない相手でも友達になれという全部が全部そのように言うつもりはありません。全く賛成できない相手の正義に賛成しろとも言っているわけではありません。繰り返します、多くの大人だって難しいものです。どうしても分かり合えない人もいます。

どうしても分かり合えない人がいるこの社会の中で、どうやって私たちが生きていくべきか。そんなことを、本日は、ゲーテの言葉、セカオワの歌詞「Dragon Night」から考えるきっかけとなるといいです。お話は以上です。素晴らしい学校、クラス、そして仲間をつくっていきましょう。